

教会堂再建計画を ふりかえって

2025年11月

【ICA建設委員会】

建設委員会メンバー：小友聰牧師、高橋千洋、小倉沙央里、山崎玲、村上元氣、
村上伸明（代表）

サポートメンバー：皆見直次、安藤哲也、佐藤洋子、佐藤のぞみ、三宅誠

妙高高原教会は、11月3日の献堂式をもって、教会堂の建物としての再建目標を達成することができました。これはひとえに教会堂を再建するための多くの力の結集であり、資金面と建築面でのご協力を頂いた皆さんに感謝申し上げます。

2023年に結成されたICA建設委員会はその役割を終えて、これから外構の整備や設備の充実化などの「教会堂の完成度向上」に関わるテーマは、若い世代を中心とする運営システムに引き継いでいくことになります。これまでICA NEWSで報告して参りました一連の「教会堂再建計画の現状と今後の予定」の締めくくりとして、再建計画の総括を報告させて頂きます。

1. 教会堂再建の意味（教会堂のコンセプト）について

教会堂の再建計画を進めるにあたって「再建される教会は、地域とビジターに開かれた場」であり、○癒される場になること、○平和を発信し育む場になること、○次世代に繋がる場としての機能を持つこと、という「夢と可能性」につながる方向を新しい教会堂の土台として定めました。

2023年の総会に向けて、2022年から一年間の間に再建の構想をまとめた「基本計画」を立て、総会で具体的な再建に踏み出すことを決定し、「建設委員会」が発足して、本格的な計画のスタートに至りました。

その検討プロセスの中で、最も多くの時間を割くことになった課題は「どのような教会にしたいのか？」というテーマでした。再建する教会を「建物は存在しても利用されるチャンスが少ない「宝の持ち腐れ」にしてはなりません。同時に、ここ数十年来のクリスチヤン村が抱える「会員数の減少」を食い止めて村を存続させるためには、宗教法人を維持し、村を活性化して会員数を増やすことが不可欠という

状況がありました。この2つのテーマは密接に関わっていますので、オンラインでの数多くの話し合いを通じて、クリスチャン村の中心になる教会を、冒頭に掲げたコンセプトに沿った形で再建しようという方向が定まりました。

2. 教会堂の再建計画について

2023年8月の「基本計画」を元に、総会①予算を2200万円とし、②建物の建築面積は100m²を目標とすること、③完成は2024年度中(～2025年3月)を目標とすること、④建設委員会を設置し、ICA会員の委任をもって計画を遂行するという方針が決まりました。

また2023年末から行った公募には17件の応募があり、その中から2024年4月に「アトリエ・ニコ」の羽ヶ崎章さんに設計を依頼することに決定しました。これは、羽ヶ崎さんの「自然との調和をベースに、どのような教会にしたいかを話し合い、方向を定めてワークショップを通じて会員が参加して作り上げる教会を目指す」という方向性が、妙高高原教会に最もふさわしいプランとして選ばれて実現した結果です。

再建のプロセスは、実際に、設計に対する意見交換の積み重ねを行った上で、基礎工事、外壁・内壁・床などのワークショップで作業する、というコンセプトのとおりに出来上りました。いま妙高高原教会として、天然素材のみで構成された癒やされる空間は、多くの選択肢の中から生まれた「貴重な巡り合い」と言って間違いないと思います。

3. 基本設計・実施設計と建設資金について

建築事務所が決定してからは、①妙高高原教会として最適な設計、②建築コストを予算内に収めること、そして③2024年度内に竣工目標という時間とのせめぎ合い、の毎日が本格的に始まりました。

①設計については、ICA建設委員会と羽ヶ崎さんの間での「どのような教会にしたいか」という検討の積み重ねとICA会員へのアンケート調査、②予算については、資材価格高騰の中での設計上のコスト削減努力、献金とクラウドファンディングを含めた資金調達方法の検討、そして③目標期限については、完成させるためには雪

が来る前の11月中に完成させなければならない、という制約がありました。

結果的に、「2024年度内」という完成目標を「2025年秋の献堂式開催」に変更すること、資金調達をICA会員を始め全国の教会や個人に向けて幅広く行う計画を立てて2024年8月の総会で総工費2400万円での建築計画が承認されることになり、その実現に向けてできる限りの手段を試みることとなりました（その時点の自己資金は2100万円でした）。

最終的な結果の内容は、①延床面積59.62m²（建築面積72.87m²）、総工費28,741,440円（内建築費23,914,000円）となりました。建築費は坪単価で108万7000円になりますが、この建物をこのコストで実現できたのは、施工会社の株式会社一鉄様の、羽ヶ崎さんとのご協力・ご努力の成果に他なりません。業者選定の経緯を含めて、この結果もICA・妙高高原教会にとっては「貴重な巡り合い」と言える結果でした。

資金調達については「教会内献金」が総額で18,858,900円になりましたが、これは積立金に加えて約553万円のあらたな献金が集まった結果です。そして、約200万円の教会外献金と500万円の会堂共済費（保険金）、および旧教会堂の土地が道路拡張計画に重なって約半分の面積を売却することで得られた3,229,600円が大きなウエートを占めることになりました



これらの項目のどれが欠けても、予算内に収めることは不可能であり、このプロセスの中には、更にたくさんの偶然が積み重なっていますが、最大の成果は、再建に関わるすべての力が結集されて、妙高高原教会再建という一つの目標に向かって歩みを続けてそれを達成することができたということ、それがこれからの妙高高原教会とクリスチヤン村の未来につながって行くこと（世代交代の兆しも見えています）、そして地域の皆さんと国内外からのビジターとの交流・貢献につながっていく可能性が開けたことにあります。

新しい妙高高原教会は、小さいけれど空間と光に包まれた、癒しと安らぎを感じられる建物として実現し、妙高高原教会は「地域と社会に開かれた教会」として踏み出そうとしています。

この計画を実現に導いて頂いた大いなる力に感謝を捧げます。

（建設委員会代表 村上伸明）